サポーター養成講座で認知症を学び、支える

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症サポーター養成講座を開催しています。講師を務めるのは、講座の研修を受けた認知症サポーターキャラバンメイト。認知症の症状や支援のあり方を分かりやすく教えます。

8月4日、佐志学童クラブの児童が認知症サポーター養成講座を受講しました。はじめに、高齢者や身体が不自由な方が普段どのようなことで困っているのかを実際に体験。その後、認知症の基礎知識や対応方法を、小学生向けの資料や紙芝居で学びました。

参加した15人の児童は、楽しみながらも優しく接することの大切さを学びました。新しい認知症サポーターとして、優しい地域づくりに貢献していきます。

思うように体が動かない…

車いすに乗ってブレーキがあることを知ったよ。

紙芝居
おじいちゃんどうしちゃったの
認知症になったおじいちゃんの紙芝居で、寄り添うことの大切さを学びました。

講義
にんちしょうってなあに？
認知症の症状や接し方を学習。誰にでも起こることとして、熱心に話を聴きました。

体験
高齢者体験
おもりや車いすを使って高齢者の移動にかかる負担を疑似体験しました。

おもりを使った体験をしたよ！
歩きにくいなー

認知症サポーターキャラバンの豆知識

オレンジ色の理由は？

陶工・柿右衛門が夕日に映える柿から着想して作り出し、世界的な名声を誇る赤絵磁器。同じように、オレンジリングが世界中で認知症サポーターの証として認められればとの思いから作られました。

ロバ隊長って？

認知症サポーターキャラバンのマスコットキャラ。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指すキャラバンの隊長として、ロバのように急がず、一歩一歩進んでいこうという意味が込められています。

認知症 supporter caravan

受講した児童の感想

- さいしょは、にんちしょうというのは、何と思ったけど、今日はじめてしりました。
- はじめてクルマイスにのったとき、おじいさんたちがきつい思いをしていると思いました。
- 車いすにのっている人は、毎日たいへんなおもいをしているのかなぁとわたしは思いました。
- おじいちゃん、おばあちゃんにやさしくしようとおもった。
- にん知しょうは、のうがはんだんしにくくなるんだなと思った。

講座の最後に修了証が手渡され、サポーターになりました。

認知症に関するお問い合わせ先

▶ **町地域包括支援センター**
もの忘れや認知症の相談担当
☎52－4690

▶ **役場高齢者支援課　高齢者支援係**
☎53－1111（内線 2173）

町社会福祉協議会
認知症サポーター
養成講座

9月は

アルツハイマー月間

1994年、国際アルツハイマー病協会が世界保健機関（WHO）と共同で、毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と定め、この日を中心に認知症への理解を広める取組が行われています。また、2012年からは毎年9月を「世界アルツハイマー月間」と定めました。

日本でも、全国で普及啓発のためのイベントなど、様々な取組が行われています。鹿児島県では、世界アルツハイマーデーを含む1週間（9月18日～24日）を「認知症を理解し一緒に歩む県民週間」と定めています。

本町では、役場本庁1階の町民ホールに展示コーナーを、図書室に認知症に関する書籍コーナーを設ける予定です。この機会に、認知症を身近なものとして考えてみませんか。

展示期間
9月1日（木）～30日（金）

認知症に向き合い、考えることができる様々な展示物が設置されます。

※写真は以前開催された「伝えたい想いプロジェクト」のコーナー

～さつまの郷 出前講座～

認知症サポーター養成講座の受講生を募集しています

認知症の方やその家族が安心して暮らすためには、見守りの輪を広げることが大切です。講座では、認知症の基礎知識や接し方、その家族への支援のあり方などが学べます。町地域包括支援センターで日程を確認の上、社会教育課社会教育係（電話53-1111）にお申込みください。

▶ **講座時間：1時間30分程度（相談可）、受講人数：5人以上**

町地域包括支援センター
今村 章宏 主事